

赤岳(南八ヶ岳)―残雪期に初登頂

(報告)U

◎日程 2016年4月9日(土)10(日) 曇り晴れ

◎参加者 F(L)、U

雪山集中講座第3弾、赤岳。事前情報では美濃戸口からのダートが抉れ、普通車は通行困難の由。さらに直前の先行車が泥濘を避け脱輪してスタック……。やむなく引き返し裏道を使うも何れ劣らぬ難路で、Fさんの愛車エブリイは右に左に30度傾き、サイドもお腹も擦れまくりです。果敢に進み続け(というよりもバックは自殺行為なので進む他なく)無事クリアしたものの、明日通って帰れるのかなと素朴な疑問が沸き起こります。前途多難な予感……。

ともあれ1時間の林道歩きは免れ、11時前に赤岳山荘を出発。無風快晴、気温は14℃。阿弥陀岳が青空に映え美しいとは思ふものの気後れもあり、「Fさんは毎回山を見上げてどんなことを感じるのですか？」と率直に聞いてみると、「よしっ!!って思うよ」とサラリ。羨ましい。凡人の私はコツコツ経験を重ねるのみ、がんばれ私! ――登る前から次元の低いスタートです。

北沢は堰堤広場まで土の道。橋を越え氷と土の露出を繰り返して赤岳鉱泉に到着すると、半袖の登山者たちが眩しそうに空を見上げています。大部屋は陽光が差し込み暖かく、新設直後の女性用更衣室には全身鏡にソファに化粧台!そして談話室には京都の古書店から出本された文庫が。登らずここにも……とは勿論言い出せず、部屋に戻りセルフビレイをおさらいし、今度こそ実地装着となるアバランチトランシーバーとバックル着脱式レググループハーネスを受け取ります。時々に見上げる空はすっきりと澄み渡り、夕焼けも星もきれいに見せてくれました。



(横岳を左手に見上げながら)

辺りで斜度が増し、じわりじわりとジェットコースターで上っていくような気分。登った木から降りられずにいる子猫を保護した子どもの頃の記憶が不意に蘇りましたが、過度な緊張は禁物と思考のシャッターを下ろし、一步一步を確かめるように足を運びました。

翌朝6時過ぎに出発。地藏尾根を登り文三郎尾根から下る予定でしたが、行者小屋手前から見上げた地藏尾根に雪が少ないとの判断で文三郎尾根のピストンに急遽変更。荷物をデポ後、樹林帯を抜け、阿弥陀北稜・北西稜の登攀者や横岳の雄姿を眺めつつ高度を上げます。梯子の鉄材が雪から覗き始めた



(山頂直下、鎖場を下山者に譲り急斜面を登るFさん)

中岳ルートの合流から先、最後の取り付きまで他パーティが登りに張ったザイルを頼らせてもらいました。すれ違いを避け鎖のない箇所を涼しい顔で登っていくFさん。上方から活写し、さながら山岳カメラマンの気分です。山頂直下、右が大きく切れ落ちたトラバースを通過する際、昨昼から(!)の宴会で伺った話がふと頭に浮かびました。「厳冬期は手の感覚が無くて、自分の手が岩を掴んでいるのを『よし掴んだね』と目で確かめながら歩くんだよ」——三点支持を確実にするためにこうして確認するのだと合点がいき、さりげなく大事なことを教えていただいていたのだと気づきました。

9時過ぎ、無事登頂。麓からあんなに高く見えていた阿弥陀岳の頂上を、目線下に見晴らかしているなんて——！春霞に浮かぶ裾野の切れた富士が、まるで足のない幽霊のよう。気温4℃、無風と暖かく、頂上で20分の大休止です。

惜しみつつ、さあ下山。と、先に行く団体を一目見たFさん、すかさず周囲の登山者に情報を聞き出し「やっぱり地蔵を下る」。いつもは温厚なのに……(笑)。というわけで、当初計画と逆周りに再変更。北峰には4月上旬だというのにイワヒバリが数羽、チュルチュル気持ち良さそうに鳴いています。地蔵尾根の下りはビレイをとっていただき安心したこともあり、あっという間です。

持参した軽量性重視のアルミ合金10本爪アイゼンは、前爪だけは研いだものの爪の効く感がなく安定性も悪く、急な下りやピッケルの刺さらない狭いトラバースで恐怖を味わい、アイゼンの選択と手入れの重要性を身を以って知りました。帰宅後即、グリベル12本爪ニューマチックを購入。これで次回はもっとバランスよくテンポよく歩ける！（かもしれない）



シャーベット状の南沢を踏み抜きに気を配りつつ下り落葉松林に入ると、正面から鹿の親子がこちらを見つめていました。私たちも足を止め、沢に逸れ休憩。自分の世界に戻ってきたようで、気持ちが解れます。

帰路に立ち寄った延命の湯は、枝垂れ桜とコブシが満開。毎年3月末の開花期には異動や職務変更で落ち着いて見ることのできない樹木を、こうして愛でられるのもまた山の楽しみです。次はホテルやツクモグサの時期、気持ちに余裕をもって硫黄岳から縦走できる力がついていますように。

10:55 赤岳山荘→11:54 堰堤広場(昼食休憩)→13:26 赤岳鉱泉(泊)6:10 赤岳鉱泉→6:44 行者小屋
7:00→9:10 赤岳 9:30→北峰→10:16 地蔵の頭 10:30→11:25 行者小屋(昼食休憩)→14:18 赤岳山荘